

平成25年度
事業報告

公益財団法人日本ナショナルトラスト

目次

I 現況	1
1. 事業.....	1
2. 役員.....	1
3. 評議員.....	2
4. 事務局.....	2
5. 事業資金.....	2
II 理事会・評議員会	3
1. 理事会.....	3
2. 評議員会.....	3
III 事業実施の概要	5
1. 調査事業.....	5
2. 保護事業.....	5
3. 普及事業.....	12
4. ネットワーク事業.....	16
5. 団体交流事業.....	17
IV 登記事項、届出・報告・申請事項、登録事項	19
V 訃報	19
別表 平成 25 年度助成金交付一覧表.....	20
参考 顧問名簿、観光資源専門委員名簿及び参与名簿.....	21

I 現況

1. 事業

定款に掲げる事業は、次のとおりである。

- (1) 国民的財産として後世に継承するに足る観光資源の認定
- (2) 前号により認定された観光資源(以下「保護対象」という。)の取得及び管理運営
- (3) 観光資源に関する保護活動への支援
- (4) 観光資源に関する保護思想及び知識の普及向上
- (5) 観光資源に関する学術調査研究並びに情報の収集及び提供
- (6) 政府及び関係機関への観光資源の保護に関する建議又は陳情
- (7) この法人の健全な発展を図るために必要な関連事業の経営
- (8) その他目的を達成するために必要な事業

2. 役員

(1) 平成 26 年 3 月 31 日現在の役員

会長(代表理事)	大塚 陸毅	東日本旅客鉄道(株)相談役
副会長(代表理事)	川村 恒明	(公財)文化財建造物保存技術協会顧問
理事長(業務執行理事)	小山 正宣	常勤
理事	厚地 純夫	東海旅客鉄道(株)常務執行役員営業本部長
理事	木部 義人	(公財)日本ナショナルトラスト関西支部長
理事	栗田 亘	コラムニスト(元・朝日新聞社論説顧問)
理事	柴崎 信三	元・日本経済新聞社論説委員
理事	柴田 耕介	(公財)日本海事センター理事長
理事	杉田 房子	日本旅行作家協会評議員
理事	杉山 篤史	(一社)日本民営鉄道協会理事長
理事	鈴木 雅和	筑波大学教授
理事	東濱 忠良	前・東京地下鉄(株)専務取締役
理事	中村 達朗	(一社)日本旅行業協会理事長
理事	野中 雅志	西日本旅客鉄道(株)執行役員金沢支社長
理事	原口 宰	東日本旅客鉄道(株)常務取締役
理事	見並 陽一	(公社)日本観光振興協会理事長
理事	村上 訥一	(公財)文化財建造物保存技術協会技術鑑査役
理事	廻 洋子	淑徳大学教授
理事	森 まゆみ	作家
理事	山村 晋一	(公財)日本交通公社理事
監事	今村 正	税理士今村正事務所代表

監事

上村 宗弘 (公財)鉄道弘済会専務理事

3. 評議員

(1) 平成 26 年 3 月 31 日現在の評議員

評議員	大西 孝夫	前・(一財)休暇村協会理事長
評議員	黒野 匡彦	(一財)運輸政策研究機構会長
評議員	佐々木 隆	(株)ジェイティービー代表取締役会長
評議員	曾我 健	(公財)NHK交響楽団名誉顧問
評議員	堤 哲	元・毎日新聞編集委員
評議員	伏屋 和彦	元・会計検査院長(元・国税庁長官)
評議員	松山 良一	(独)国際観光振興機構理事長

4. 事務局

平成 26 年 3 月 31 日現在の職員 4 名

5. 事業資金

本財団の事業資金は、事業賛助団体からの寄附金並びに個人および団体からの会費等による。

Ⅱ 理事会・評議員会等

1. 理事会

(1) 第1回理事会(通算第89回理事会) 平成25年6月5日

開催場所 海事センタービル8階会議室

決議事項 平成24年度事業報告及び決算報告、定時評議員会招集の件、顧問の選任、参与の委嘱

報告事項 業務執行の状況

出席等 決議に必要な出席理事の数10名、出席14名、欠席7名。監事出席2名。

(2) 第2回理事会(通算第90回理事会) 平成25年6月21日

開催方法 決議の省略の方法

決議事項 業務執行理事(理事長)選定、顧問選定

出席等 提案書に対し、理事21名全員の書面による同意の意思表示及び監事2名全員からの書面による異議がないことの意味表示を得た日をもって、理事会の決議があったものとみなされた。

(3) 第3回理事会(通算第91回理事会) 平成25年12月10日

開催場所 海事センタービル8階会議室

決議事項 東日本大震災 自然・文化遺産支援プロジェクト支援対象の選定(案)、中期計画の進捗状況

報告事項 業務執行の状況、平成25年度第4回(第92回)理事会の開催

出席等 決議に必要な出席理事の数11名、出席15名、欠席6名。監事出席2名。

(4) 第4回理事会(通算第92回理事会) 平成26年3月11日

開催場所 海事センタービル7階会議室

決議事項 平成26年度事業計画及び収支予算、平成26年度補助金等の交付申請、特定資産の取崩(案)

報告事項 代表理事・業務執行理事の職務の執行状況の報告、平成26年度第1回(第93回)理事会の開催、東日本大震災 自然・文化遺産復興支援プロジェクトの進捗、旧モーターガン邸の現況について等の業務執行の状況

出席等 決議に必要な出席理事の数11名、出席13名、欠席8名。監事出席2名。

2. 評議員会

(1) 定時評議員会(通算第65回評議員会) 平成25年6月21日

開催場所 海事センタービル8階会議室

決議事項 平成24年度事業報告及び決算報告、役員を選任、理事の選任

報告事項 平成25年度事業計画及び収支予算、平成24年度第2回理事会(通算第87回理事会)、第2回理事会(通算第88回理事会)及び平成25年度第1回理事会(通

算第 89 回理事会)理事会の決議事項

出席等 決議に必要な出席評議員の数 4 名、出席 6 名、欠席 1 名。同席理事 2 名、同席監事 1 名。

Ⅲ 事業実施の概要

1 調査事業

(1) 受託調査

① 輪島市文化的景観保存計画拡充等業務(石川県輪島市)

平成 20 年度から調査を実施してきた輪島市大沢町・上大沢町の文化的景観保存計画について、専門家を交えたワークショップや住民との意見交換会を通じて内容の拡充を行うための業務。今年度は、平成 24 年度に策定した保存計画(案)に基づいて、文化的景観の重要な構成要素である間垣の修理修景基準のあり方を検討するとともに、材料や人材、技術のニーズをマッチングし文化的景観を持続的に保全するための仕組みを構築することを目的に、追加調査や住民向けパンフレットの作成等を実施した。

《委員》麻生恵・東京農業大学教授、木越祐馨・七尾市文化財保護審議委員、安藤邦廣・筑波大学教授、坂本英之・金沢美術工芸大学教授、大門哲・石川県立歴史博物館学芸員、松本清・当財団専門研究員、荒井歩・東京農業大学准教授、北口公男(輪島市文化財保護審議委員)、井池光夫(輪島市文化財保護審議委員)、高木信治(輪島市文化財保護審議委員)

* 石川県輪島市からの委託

② 伝統的建造物(間垣)保存システム構築のための調査支援業務(石川県輪島市)

文化的景観保存計画の策定にあたり、現在課題となっている間垣の修理・修景のあり方や外部支援を交えた材料・人材等を確保するためのシステム構築を検討するための調査で、輪島市が主体となり、国土交通省「歴史的風致維持向上推進等調査」の採択を受けて実施する業務の支援を行った。本業務の成果を受けて、文化的景観保存計画の策定および住民の合意形成を行っていく。

2 保護事業

(1) 文化財取得保護計画に基づく保護事業

① 白川郷合掌造民家(旧寺口家)の修復と管理運営 (岐阜県白川村)

平成 22 年度に白川郷荻町集落の自然環境を守る会と締結した管理業務委託契約に基づき、日常点検や清掃、軽微な修理等を行った。

今年度は「結」による屋根葺き事業の実施にあたり準備段階から実施まで綿密に打合せを行った。平成25年3月13日に白川郷荻町集落において白川ボックス会長、守る会会長及び区長、役場担当者等と旧寺口家屋根葺き事業実施に向けた実務者レベルの打ち合わせを行い『10月26日実施、翌27日(日)雨天予備日とする』ことで最終決定した。その後、4月22日には現地において住民を中心とした詳細打合せを開催。

8月29日に白川郷荻町集落において守る会会長及び荻町区長、白川ボックス代表、役場担当者等と「白川郷合掌文化館及び旧寺口家管理運営委員会」を実施し、9月6日(金)には実務担当者による打ち合わせも行われ、詳細な役割分担等を行った。

結果的に10月26日の屋根葺き作業は台風の影響で延期となり白川郷以外の地域から参加予定であったJNT会員ボランティアは中止。翌27日に村民と一部関係者で実施となったが、予定通り「結」による屋根葺きを行った。参加者 96名(うち9名小中学生)、募金 115,873円となった。

※次回屋根葺きは旧松井家にて 平成 27 年を予定。

《管理運営委員会》和田正人・白川郷荻町集落の自然環境を守る会会長、和田茂・JNT白川ボックス代表、古田厚一・白川村老人クラブ長生会会長、佐藤一弘・荻町区長、倉嘉宏・白川村教育委員会教育長、安藤邦廣・筑波大学名誉教授、杉田房子・日本旅行作家協会評議員(当財団理事)他

②動態保存車両(トラストレイン)の運行と定期点検及び修繕 (静岡県大井川鐵道)

4月～10月にかけて全5回のトラストレイン運行を無事に終了した。

4月20日に今年度初のトラストレイン運転日ボランティアを実施し、参加者3名が参加した。2月にボランティア有志による内部の塗り直しを実施したオハニ36の荷物車内も公開活用も実施し、今年度の活動を開始した。

8月24日にはトラストレイン親子ボランティアを企画。猛暑を警戒してか、お子様の参加申し込みはなく、大人5名の参加となったが、千頭駅に設置されている転車台を回す貴重な体験を盛り込み、充実した内容で好評を得た。オハニ36の荷物車内も公開し、多くのお客さまにご覧いただいた。

10月13日は大井川鐵道主催のSLフェスタ(10月11日～13日)とも重なり、多数のSLファンや家族連れの来場にあわせ、JNTボランティアによるチラシ配布等による広報活動を行った。

2月25日には平成26年度の事業実施に向け、大井川鐵道株式会社とトラストレイン運営会議を実施。C12形タンク式蒸気機関車について、静態保存化に向け静岡県および大井川鐵道と協議を継続していく。

＜運転日＞4月20日、6月16日、7月6日、8月24日、10月13日

③名勝旧大乘院庭園保存整備と管理事業 (奈良県奈良市)

公開については、名勝大乘院庭園文化館での音楽会や講演会等の企画の効果もあり、ほぼ前年並みの水準を維持しており、また昨年から企画している、「観月の夕べ」を十三夜に合わせた10月19日・20日に実施し、216人来館(うち67人が入園)し好評を得た。

維持管理については、22年度の公開から3年以上が経過し、来園者による踏圧、水鳥の往来および雨水や池水による洗掘で、洲浜状の護岸施設を設けていない東大池東岸の護岸が一部乱れ、地面の沈下がみられたため、保護管理委員会の指導を受け一部修復および養生を行った。また、猛暑等による気温の上昇に伴い園池内の藻が増加しつつあることから、モニタリングを行いながら適切な除藻剤の使用等による管理を継続していくが、日常管理作業の中でも藻の除去作業を行い一定程度の状況改善がみられている。

*文化庁等補助事業

《保護管理委員会》松村恵司・奈良文化財研究所所長、尼崎博正・京都造形芸術大学教授(当財団観光資源専門委員)他

*入園者数 10,298名

③ 東京都名勝 旧安田楠雄邸庭園の修復と管理活用事業 (東京都文京区)

4年間にわたる庭園の保存修理工事の最終年度にあたる25年度は玄関前の前庭の万代堀取り毀しと外周堀の設置、樹木の伐採・抜根および新植、自然石縁石及び庭門、袖垣の設置を実施し、庭園工事を完成させるとともに庭園修復工事報告書を完成させた(総事業費約890万円)。これについては5

月 24 日の庭園ワーキング会議にて庭園保存修理工事の内容を固め、7 月 8 日の保護管理委員会にて承認を得た。8 月 3 日にはボランティア説明会を開催し、工事内容の説明を行った。8 月 8 日には設計監理者、施工業者との打ち合わせを実施し、9 月末の現状変更申請提出に向けて資料作成を依頼した。2 月 13 日の庭園ワーキング会議にて工事の進捗確認・報告書の方向性・庭園の公開方法について確認を行った。庭園工事の完了に合わせて、東京都指定名勝の説明板が東京都により表門前に設置された。

定期修繕では、残月の間床の間の天井張り替え、東日本大震災で被害の出た 2 階土壁の塗り直しの実施を予定していたが、緊急性が低いことから見送りとした。残月の間床の間の天井張り替えは、平成 26 年度補助事業での実施を予定している。

活用として CM およびテレビドラマの撮影ロケ地としての利用、イベント開催や撮影会などでの貸切利用も増加傾向にあり、好調を維持している。

管理運営については、5 月末の「たてももの応援団」理事会を経て、6 月 1 日より仰木ひろみ氏が新たにマネージャーとして就任。前マネージャー多見貞子氏は、引き続きボランティアメンバーとして旧安田楠雄邸の運営に協力をいただいている。

6 月より旧安田楠雄邸をたてももの応援団事務所として一部使用を認めた。なお、使用にあたっては覚書を取り交わし、範囲と管理責任を明確にした上で実施している。

活用については、平成 22 年度からの文化庁補助による継続事業において蓄積した五節句行事のノウハウを生かし、平成 25 年度は補助金交付を受けずに「端午(5 月)」「七夕(7 月)」「重陽(10 月)」「人日(1 月)」「上巳(3 月)」の五節句行事を継続して実施した。

10 月 19～12 月 1 日に「文京ふるさと歴史館」において実施された旧安田楠雄邸他文京区内の歴史的建造物に関する特別展示の期間において、「文京ふるさと歴史館」との相互割引を実施し相互流動の促進を図った。

* 東京都等補助事業

≪保護管理委員会≫大河直躬・千葉大学名誉教授(当財団観光資源専門委員)、井手久登・東京大学名誉教授(当財団観光資源専門委員)、樋渡達也・前文化財指定庭園保護協議会会長、河東義之・小山工業高等専門学校名誉教授、内田青蔵・神奈川大学教授、服部勉・東京農業大学准教授 他

* 入館者数 一般公開 6,929 名、団体見学 238 名

④ 京都市指定文化財 駒井家住宅の修復と管理事業 (京都府京都市)

平成 24 年度の調査により基礎構造及び外壁については大規模修繕が必要であることが判明し、26・27 年度における解体調査及び修復工事を実施する方向で調整を行っていたが、京都市の補助金措置の目途がついたことから、とくに緊急を要する玄関回り外壁構造材腐朽部修復工事及び 2 階北側洋室床構造調査を前倒しで実施した。2 階の床構造については、一部の床を開け内部の状態を調査したところ、部材の健全性が確認され緊急を要する問題はないことが明らかになった。玄関周りの軸組については、腐朽及びシロアリ被害が大きく進行しており危険な状態であることから、一部工事を追加して実施することとした。そのため、26 年 3 月の一般公開は臨時休止することとした。

隣家から要望されていた大王松の対応については、保護管理委員会委員からの指導助言を踏まえ、今後予定されている隣家の改築等工事の状況に合わせて伐採を行うこととした。

活用については、25 年 3 月 29 日より 4 月 9 日に実施した「駒井家住宅春の特別公開～白川疏水の桜

とヴォーリズの洋館を楽しむ～」で 12 日間に渡る連続公開を行い、好評を得た。広報には JR 西日本京都支社および京都市観光協会等の協力をいただき、京都駅構内観光案内所等にチラシの設置をしていただいたほか、新聞やテレビ等での紹介頻度の増加により、知名度が飛躍的に向上し、その後の貸館や撮影等での利用につながった。また、京都造形芸術大学日本庭園研究センターの実習で庭園樹木の管理作業を実施したり、同学映画学科による映画撮影で駒井家住宅をロケ地として提供する一方で学生のボランティア参加を受け入れたり、さまざまな連携を行った。今後は建物・庭園それぞれの分野で大学との連携を図っていくことを検討している。

《保護管理委員会》三村浩史・京都大学名誉教授(当財団観光資源専門委員)、山形政昭・大阪芸術大学教授、松井正文・京都大学大学院教授 (平成 25 年 2 月～)他

* 京都市補助事業

* 入館者数 一般公開 1,539 名(公開日数 67 日)、団体見学 167 名

⑥旧モーガン邸の管理事業 (神奈川県藤沢市)

藤沢市を主体とする公園化にむけた案が最も現実的として市との交渉を継続するとともに、適切な安全管理及び地域活性化の観点から、平成 23 年度より実施している JNT と特定非営利活動法人旧モーガン邸を守る会による活用試行を今年度も継続的に実施した。収支均衡を目標に月 1 回の庭園公開とイベントを実施しており、今年度も順調に推移した。日常の維持管理については、守る会との管理委託契約に基づき、1ヶ月に1回の清掃ボランティア活動を継続的に実施した。

安全対策としては、主屋及び別棟の安全対策工事完了、竣工検査を実施した。これに合わせて現主屋のシートの貼り直し及び屋根を固定している鉄線の締め直しも実施した。

今後の扱いについては、遺構表示を行った上での公園的な整備実施について藤沢市との協議を進め、最終的には市へ譲渡する方向で、7 月に市と面談を行い、市として解決する意思があることを確認した。改めて 11 月 18 日に藤沢市から「土地および保険金の残額を JNT から譲渡してもらうことを前提に、公園として整備していきたい」との打診があり、協力していく旨回答した。また、旧モーガン邸世話会にて、藤沢市から守る会に対しても、公園として整備していく旨の説明が行われた。今後は、遺構表示の具体的内容、土地譲渡の条件等について藤沢市と調整を進めていく。

《保護管理委員会》井手久登・東京大学名誉教授(当財団観光資源専門委員)、吉田鋼市・横浜国立大学教授、亀山章東京農工大学名誉教授、村上詎一・公益財団法人文化財建造物保存技術協会審議役(当財団理事)、大野敏・横浜国立大学准教授、水沼淑子・関東学院大学教授、菅孝能・山手総合計画研究所代表取締役、他

⑦文化財取得保護計画募金計画の継続

文化財取得保護計画における募金計画の成果を受けて、さらに利活用を目指した修復を実施するために、経済界および関係諸団体、会員などに対し広く呼びかけを行い、募金活動を推進した。

(2)その他の保護事業

①天心遺跡記念公園及び天心墓地の保護管理 (茨城県北茨城市)

天心生誕 150 年・没後 100 年にあたる本年は、映画「天心」の公開をはじめ、さまざまなメディアで天心

が特集され遺跡記念公園や墓地の露出も増大した。また、10月26日・27日には「大観月会 2013」が開催され、天心邸での茶会、茨城県天心記念五浦美術館での邦楽コンサート、26日には座談会が行われ、当財団からも役職員が出席した。

遺跡記念公園については、東日本大震災で海側が崩落したことから広場部分から奥への進入を禁止したが、安全な美術館(陸)側については下草の繁茂が激しいため、25年度は年2回の除草・剪定作業を行った。

管理については、墓地の清掃作業等のボランティア希望者があったため、10月から作業を依頼した。五浦を訪れる方が増える状況の中、より良好な状態を維持できるよう努めていく。

《保護管理委員会》豊田稔・岡倉天心偉績顕彰会会長、小泉晋弥・茨城大学教授、猪瀬幸己・茨城県立天心記念五浦美術館館長 他

* 北茨城市補助事業

②ED70形1号交流電気機関車の保護管理（滋賀県長浜市）

西日本旅客鉄道(株)寄贈のED70形1号交流電気機関車を長浜市民やJNT会員ボランティアによる保護管理を行い、広く一般に公開している。また、平成22年度からジェイアール西日本商事株式会社により商品化された「ED70-1 ナンバープレート」については引き続き、連携して販売・普及に努めた。

③巻機山の景観保全（新潟県南魚沼市）

巻機山景観保全ボランティアズの協力を得て、約90平方メートルにわたる植生復元、山頂付近の移入植物の調査と除去、登山道の水切工付近の整地等を行った。

30年を超えるこれまでの活動が大きく評価され、「巻機山景観保全ボランティアズ」(事務局:当財団内 代表松本清氏)が、ボランティア団体としては初の観光庁長官表彰を受賞した(10月1日)。

活動実施日 夏季活動:8月24日から27日、秋季活動:9月17日から18日

参加者総計 29名

④東日本大震災 自然・文化遺産復興支援プロジェクトの実施

東日本大震災で被災した自然・文化遺産について、地域(まち)の“シンボル”でありながら、国や地方公共団体による支援の及ぶにくいものの復旧・復興を支援する「SEEDS OF FURUSATO～東日本大震災自然・文化遺産復興支援プロジェクト～」を引き続き推進した。

今年度は第三次支援事業の募集を行い、申請のあった23件のうち、12件(有形文化財6件、民俗・無形6件、助成交付額計1,210万円)を採択した。

パートナー事業では、「机浜番屋群再生プロジェクト」(岩手県田野畑村)についてJR東日本車内搭載誌「トランヴェール8月号」に記事掲載を行ったほか、「尾形家住宅修復保存プロジェクト」(宮城県気仙沼市)では、7月14日にシンポジウム「故郷で守りたいものがある」を気仙沼尾形家修復保存会と共催で実施した。

なお、机浜番屋群再生プロジェクトについては、田野畑村が国の復興交付金を受けて番屋群の再生を行うことが決定し工事に着手したことから、当プロジェクトへの寄付金目録を「机浜番屋群再生プロジェクト実行委員会」委員長の石原弘・田野畑村長に贈呈した(平成24年4月1日から平成25年12月31日までの寄付金額は金41万9,500円)。

広報、募金活動については、ホテルメトロポリタンにおいて寄付金組み込みの「プレミアムパーティープラン」を実施していただいたほか、ホテルグランヴィア京都においても寄付金組み込みの宿泊プランの設定をいただいた。その他、株式会社ビューカードが展開するポイントプログラム「ビューサンクスポイント」における社会貢献プログラム「ビューサンクスサポート」に取り上げていただき、2,764,337 円の寄付を頂戴するなど、当財団が有するネットワークを生かし、観光関係団体・企業等の協力を得て広くプロジェクトの周知を行うとともに、当財団賛助団体や経済界をはじめ、広く国内外の団体・個人に働きかけ積極的に募金活動を実施した。

(ア) イベント等の実施・参加

・シンポジウム「故郷で守りたいものがある。～被災地で歴史ある風景を残すために～」実施

<日付> 7月14日

<会場> 旧高野家住宅(甘草屋敷) (山梨県甲州市)

<参加者数> 約 100名

尾形家修復保存会との共催事業として、事例報告会及び尾形家の部材を使用した公開修理を実施。広報活動においてはJR東日本観光戦略室及び八王子支社をはじめ甲州市の協力も得て、学生等を含め広く告知した(募金額 98,310 円)。

・「第6回いすみ健康マラソン」での広報・募金活動

<日付> 12月8日

<会場> 岬ふれあい会館 (千葉県いすみ市)

本プロジェクト賛同者である増田明美氏のご厚意により、マラソン大会メイン会場に特設ブースを設置していただき、プロジェクトの紹介や募金活動を行った。(募金額 41,054 円)

・「文化遺産とまち、ひと復興」リレーイベント東京大会への参加

<日付> 12月20日

文化庁と気仙沼風待ち復興検討会主催の上記大会に参加し、東日本大震災の復興支援に関するディスカッションにおいて、当財団からはパートナー事業「尾形家住宅修復保存プロジェクト」を中心に報告を行った。

(イ) 助成事業の状況

・6月13日…第三次支援事業募集開始

・9月30日…第三次支援事業募集締め切り

※23件の申請があった。(有形文化財・記念物 14件、無形民俗 9件)

・11月15日…第3回支援事業特別委員会開催

・12月10日…第三次支援事業対象の発表

(ウ) 募金の状況

法人 5,778,477 円、個人 802,906 円、パートナー事業 361,810 円の合計 6,943,193 円の募金が寄せられた。(平成 26 年 3 月末累計 61,086,976 円)

(3)ヘリテイジセンターの管理運営

①葛城の道歴史文化館の管理運営（奈良県御所市）

平成 23 年度に(財)日本宝くじ協会の助成事業として、内装及び外装工事の他、トイレ等水回りの改修、冷暖房設備の新設、電機設備改修等を実施し、展示についても御所市の予算により、葛城古道の航空写真を新設したほか展示を一新したことで、来館者へのサービス充実も図れ、好評を得ている。

管理運営については、御所市観光協会が中心となり、適切な公開および運営を行っている。(入館者数 8,211 名)

②飛騨の匠文化館の管理運営（岐阜県飛騨市）

平成 21 年度改修工事により新しく拡充した展示コーナーや体験コーナー等を活用しながら、飛騨の匠の技を体感できる場として、また歴史を活かしたまちづくりの拠点としての役割を發揮した。また、夏休みには「産業観光スタンプラリー」や「ぐるっと街ごと絵本館」のスタンプラリーなどにも参加するなど、様々なイベントでも活用されている。(入館者数 6,908 名)

③白川郷合掌文化館(旧松井家)の管理運営（岐阜県白川村）

管理運営については安定した体制での管理を目的に、白川村在住の JNT 会員からなる白川ボックスと管理業務委託契約を締結し、日常点検や清掃、軽微な修理、屋根のメンテナンス等を実施している。一般公開等の活用としては、8 月 1 日～31 日に、夏季開館を実施した。

7 月 9 日には白川ボックスの総会、8 月 29 日には白川郷合掌文化館及び旧寺口家管理運営委員会が開催され、2 棟の茅葺屋根葺き替え事業について活発な議論が行われた。

* (一財)世界遺産白川郷合掌造り保存財団助成事業

④名勝大乘院庭園文化館の管理運営（奈良県奈良市）

昨年度に引き続き、好評であった「庭園講座」「二十四節気展」「写真展」「ヨーロッパフラワーアレンジメント展覧会」等を実施したほか、庭園との共催で十三夜に合わせた「観月の夕べ」を 10 月 19 日・20 日に実施、お茶席も設け大変好評であった。また、恒例となった「なら燈花会」や「ムジークフェストなら」、今年度から実施された「珠光茶会」など奈良での大きな観光イベントの会場に利用されており、来館者も着実に増加している。(入館者数 50,050 名)

⑤長浜鉄道文化館の管理運営（滋賀県長浜市）

長浜市および長浜観光協会により、夏季企画展「プラレールフェスティバル」が開催されるなど、積極的な活用が図られた。また、年間を通じ長浜の鉄道史を紹介するほか、HOゲージ運転コーナーも設けられ、歴史を活かしたまちづくりの拠点としての役割を發揮した。(入館者数 56,974 名)

⑥琴引浜鳴き砂文化館の管理運営（京都府京丹後市）

日本や世界の鳴き砂の展示や世界各地から漂着する漂着物などの常設展示のほか、季節に合わせた特別展示を実施している。

展示のリニューアルや一部老朽化した建築部材や建具、設備の改修については、設計者、京丹後市、

琴引浜の鳴り砂を守る会らとともに、現地で具体的な手法等を確認した。改修工事については平成25年度の京丹後市による合併浄化槽の設置計画を踏まえて、(財)日本宝くじ協会への申請を行った。(入館者数 9,143名)

⑦北陸線電化記念館の管理運営 (滋賀県長浜市)

D51形蒸気機関車とED70形1号交流電気機関車を並べて展示するとともに、交流電化の歴史資料等のパネルを展示した。Nゲージ模型車両レイアウト展示を行い、旧長浜駅舎および長浜鉄道文化館と一体となった企画、運営を行った。

なお、建物の改修等に関して(財)日本宝くじ協会への申請を行った。(入館者数 56,974名)

⑧村上歴史文化館の管理運営 (新潟県村上市)

(財)イヨボヤの里開発公社により、常設展に加え、夏期特別展「道具から見る昔の仕事」、第12回村上学講座「三面川の鮭と鮭漁」等を開催したほか、「第30回 城下町村上に伝わるひな人形展」が催され、歴史を活かしたまちづくりの拠点としての役割を發揮した。(入館者数 15,520名)

⑨四国鉄道文化館の管理運営 (愛媛県西条市)

4月には写真展「宇高連絡船」、「ふじわら親子が撮る SLやまぐち号の魅力」などを開催。夏休みには鉄道教室「伊予西条駅探検」、「ペーパークラフト体験教室」なども開催した。他にも、ミニ SL 乗車会、HOゲージの常設及び走行会等を適宜、実施するなど、積極的な活用がなされた。(入館者数 26,946名)

⑩各ヘリテイジセンター間の連携

地域まちづくりの情報発信地として運営される各ヘリテイジセンターの連携を推進した。

3 普及事業

(1) 会員事業

① 見学会・催し物等の開催

(ア) トラストトレイン運行

< 運転日 > 4月20日、6月16日、7月6日、8月24日、10月13日

< ボランティア参加者数 >

4月20日 3名、6月16日 2名、7月6日 2名、
8月24日 5名、10月13日 5名

(イ) 旧安田楠雄邸庭園

4月6日……………しだれ桜と薩摩琵琶の夕べ(88名)

5月1日～5日……………端午の節句(722名)

6月1日……………福楽寄席(64名)

7月3日及び6日……………七夕の節句(83名)

7月13日……………新内節の夕べ(88名)

- 10月25日～27日 ……重陽の節句（183名）
- 11月2日～6日 ……東京文化財ウィーク参加企画「歴史をつなぐ修復ものがたり」（457名）
- 11月16日・20日・23日 ……駅からハイキング（計約200名）
- 1月8日 ……人日の節句（45名） 七草粥のふるまい
- 2月26日～3月2日 ……上巳の節句（495名） 雛祭り
- 3月29日 ……しだれ桜と薩摩琵琶の夕べ（119名）

(ウ) 駒井家住宅

- 3月29日～4月9日 ……12日間連続公開 「駒井家住宅春の特別公開～
白川疏水の桜とヴォーリズの洋館を楽しむ～」 640名

② 会員活動の支援

当財団は会員の自主的な活動に対して、様々な支援を行った。

(ア) 地域活動

白川ボックス／ヘリテージセンター白川郷合掌文化館の開館・建物維持管理

- ・4月 ……雪囲いはずし
- ・7月27日 ……合掌文化館 清掃
- ・8月1日～8月31日 ……合掌文化館 開館
- ・12月 ……合掌文化館 雪囲い
- ・1月 ……合掌文化館 雪降ろし

(イ) サークル活動

A. 鉄道サークル／会合等

B. 民家サークル／ 総会、見学会、講演会等

- 5月30日 ……講演会 無垢里の町並探訪「京都府、美山集落」
- 6月29日 ……見学会 神奈川台場とアールデコの氷川丸
- 7月27～28日 ……見学会 長野県
- 8月21日 ……講演会
- 11月10日 ……見学会 富士吉田の町並み
- 1月19日 ……見学会 横浜の見学会と新年会

(ウ) その他

感謝状および記念バッジの贈呈

- ・約5年にわたり旧安田楠雄邸のマネージャーを務めてくださった多見貞子様へ感謝状を贈呈した。
- ・長年にわたり当財団の会員として事業をご支援くださったみなさまへ感謝の意を表するため、10年・20年・30年・40年の節目を迎えられた会員のみなさまへ感謝状および記念バッジを贈呈した。

③ 会員増加キャンペーンの継続

関連団体及び企業の協力により、入会申込書の配布や設置、ポスター掲出等を行い、入会促進に努めた。期間限定で以下のキャンペーンを行った。

(ア)入会金無料キャンペーン

白川郷の屋根葺き事業を個人会員増加の機会と捉え、ボランティア募集期間に合わせて入会金無料キャンペーンを行い積極的にPRした結果、21名の新規入会があった。

(イ)会費無料キャンペーン

1月1日から3月31日までに入会した方を対象として入会金と初年度会費を無料にするキャンペーンを実施したところ、29名の新規入会があった。

(2) 広報事業

①会報「日本ナショナルトラスト報」の発行・配布(隔月刊)

年間6回の発行で紙面の充実した会報作りを行っている。会員へ配布するとともに、事業協力者へも広く頒布し、ナショナルトラスト活動の普及に努めた。

<体裁>B5 16頁 <発行部数>3,000部 <通巻>495号~500号

495号 特集「陸前高田・秋葉権現川原獅子舞 復興へのあゆみ」

496号 特集「SEEDS OF FURUSATO 第三次支援事業募集開始」

497号 特集「岡倉天心 生誕150年・没後100年」

498号 特集「白川郷旧寺口家『結』による屋根葺きを実施」

499号 特集「SEEDS OF FURUSATO 第三次支援対象決定」

500号 特集「会員の集い 開催」

②メールマガジンなどの普及宣伝ツールの充実

月2回程度のメールマガジンを配信し、会員および事業協力者へのタイムリーな情報発信を図るほか、ナショナル・トラスト活動の普及に努めた。(登録者数 約300名)

③広報宣伝活動の強化

(ア)「学生観光論文コンテスト」の実施

(一財)日本ホテル教育センターと共催で第3回「学生観光論文コンテスト(賞金総額100万円)を実施した。

<論文テーマ>

A)「観光立国で日本を元気にする方策について、私の提案」

B)「観光資源保護におけるナショナル・トラスト活動の役割について、私の提案」

C)「我が国のMICE競争力強化に向けて、私の提案」

<募集期間>平成25年10月1日~11月29日

<表彰>平成26年2月18日

「公益財団法人日本ナショナルトラスト 会長賞」として小山理事長より賞状授与

受賞者 明治大学 経営学部 公共経営学科 菊地ゼミ3年

森山真稔・大浅希衣・野原紬・柳橋理子

論文タイトル 「集約型自治体クラウドファンディング・システムによる伝統的景観の形成と観光立国の推進戦略に関する研究~美しい街“なみ”がもたらすにぎわいの

“なみ”～」

(イ)ビューカードとの連携

JR東日本グループ(株)ビューカードと連携し、ビューカードのご利用によってたまったポイントを応募することで伝統文化の保護や継承などに役立つ社会貢献プログラム「サンクスサポート」の支援対象として「SEEDS OF FURUSATO 東日本大震災自然・文化遺産復興支援プロジェクト」を取り上げていただき普及宣伝に大きな役割を果たした。

(ウ)旧安田楠雄邸庭園とJRとの連携

西日暮里駅発の「駅からハイキング」のコースに旧安田楠雄邸庭園を組み込み、マップにも歴史等概要を掲載していただき、約200名のお客さまにお訪ねいただく結果となった。また、日暮里駅・西日暮里駅には旧安田楠雄邸で行われる季節ごとのイベントのポスターやチラシの掲出、駅周辺地図に旧安田楠雄邸庭園を追加していただく等、日ごろから普及宣伝にご協力いただいた。

(3) その他普及事業

①地域遺産支援プログラムの実施

文化財等の指定を問わず、有形無形の別なく、その地域にとって大切に、また観光の魅力となりうる自然遺産や文化遺産である地域遺産が、地域によって持続的に保存・活用がなされ、次の世代に継承されていくための支援を行うことを目的としている。

本年度は中でもヘリテイジツーリズムを中心に推進した。白川郷屋根葺きに合わせた飛騨古川ツアー(10月25日)は、(一社)飛騨市観光協会や(株)美ら地球(ちゅらぼし)の協力を得て実施予定であったが、台風の影響で催行中止になった。気仙沼、大内宿、角館はVTS(びゅうトラベルサービス)にて団体旅行を商品化。気仙沼は、風待ち復興検討会にご協力いただき、現地ガイドをお願いした。大内宿・角館においても伝統的建造物群保護地区を歴史的建造物の切り口で巡るガイドツアーを造成いただいた。

3月4-5日には富山県南砺市の城端において開催される町並み調査及び検討会へ職員を派遣した他、3月19日には新潟県佐渡市において「小木まちなみ講演会」へ講師を派遣するなど、今後のヘリテイジツーリズムの展開も含めて事業推進に努めた。

②「会員の集い2014」の開催

会員に事業内容を伝えると共に、会員同士の交流の輪を広げてもらうことで今後の会員獲得へつなげるため、「会員の集い2014」を開催した。

<日時>3月9日

<会場>求道会館(東京都文京区) ※東京都指定文化財

<参加者数> 40名

白川郷の「結」による屋根葺きや旧安田楠雄邸庭園の管理・活用について、観光庁長官表彰を受けた巻機山の植生復元活動などについて会員の方々から活動報告をいただき、交流の輪も広がった。

③各種シンポジウムなどイベントの開催

(ア)7月14日……「故郷で守りたいものがある。～被災地で歴史ある風景を残すために～」

<会場> 旧高野家住宅(甘草屋敷) (山梨県甲州市)

<参加者数> 100名

尾形家修復保存会との共催事業として、事例報告会及び尾形家の部材を使用した公開修理を実施。広報活動においてはJR東日本観光戦略室及び八王子支社をはじめ甲州市の協力も得て、学生等を含め広く告知した(募金額 98,310円)。

(イ)10月27日…白川郷旧寺口家「結」による屋根葺き開催

村の方々をはじめ、地元の小中学生にも参加していただくとともに、多くの観光客にも見ていただき、ナショナルトラストへの興味・理解を深める良い機会となった。

4 ネットワーク事業

(1)各ネットワーク事務局の運営支援と連携協力

①「全国鳴砂ネットワーク」への支援

11月2～3日、全国鳴砂ネットワークの平成25年度総会およびサミット「巨大大津波に耐え、蘇るいわきの鳴砂」が開催され、事務局として参加した。サミットでは、原口強・大阪市立大学准教授による講演が行われるとともに、守る会の活動報告をはじめ、福島工業高等専門学校やいわき市立勿来第一中学校による鳴き砂の調査活動等が報告され、今後も継続して変化の状況を把握し、将来に守り伝えていくことが確認された。

<会期> 11月2日～3日

<会場> いわき新舞子ハイツ(福島県いわき市)

<参加者数> 約70名

②「全国近代化遺産活用連絡協議会」への支援

7月4日から6日、群馬県富岡市で総会・フォーラム等が開催され、職員が参加した。昨年ICOMOS(国際記念物遺跡会議)による現地調査を受け、本年世界遺産に登録される予定の富岡製糸場を会場に、国内外の事例をもとにフォーラム・シンポジウムを開催。とくに、2日目のシンポジウムは、イタリアから研究者を招聘し、同国のユネスコ世界遺産暫定リストに記載されたイブレア市での取り組みを通じた研修・意見交換を行なった。

<会期> 7月4日～6日

<会場> 富岡製糸場(群馬県富岡市)等

<参加者数> 約200名

③「一般社団法人日本茅葺き文化協会」への支援

全国茅葺き民家保存活用ネットワーク協議会を前身として、一般社団法人日本茅葺き文化協会が設立され、現在は団体会員として加入している。本年度も情報交換・交流の場として連携を図った。

5月25日に静岡県富士宮市で開催された総会及び第4回茅葺きフォーラムに出席し、10月に控えた白川郷屋根葺き事業の広報宣伝および参加募集への協力を求めた。

④「湘南邸宅文化ネットワーク協議会」への支援

9月7日～12月15日まで行われた「湘南邸園文化祭」の中で、11月17日に行われた「旧モーガン邸のための講談会」について後援を行うとともに、藤沢駅・大船駅にポスターやチラシを掲出し宣伝・集客の支援を行った。

⑤「ヴォーリズ建築文化全国ネットワーク」への支援

平成24年度をもって事務局を他団体へ移管し、会員として協力を継続している。

5 団体交流事業

当財団は文化財や自然環境の保護・保全を目的とする各種団体と交流を図り、情報の交換、事業協力を行った。また、国内の諸団体や海外のナショナルトラストをはじめとする環境保全団体等と交流を行い、情報収集に努めた。

(1) 国内交流事業

①国内保護団体との連絡連携及び情報の交換

(ア)「第36回全国町並みゼミ倉敷大会」に参加

全国で町並み保存に関わる地域住民や研究者、専門家が年に一度集まり、情報交換や勉強を行う大会に出席し、近況の報告や保存、管理の問題点や課題について協議した。

<会期>9月20日～9月22日

<会場>岡山県倉敷市

②その他登録を行っている諸団体

(公社)京都市観光協会、(公社)国際観光施設協会、(社)日本観光振興協会、(社)日本観光通訳協会、(一社)日本茅葺き文化協会、(財)日本クリスチャンアカデミー関西セミナーハウス、(公財)日本交通公社、特定非営利活動法人文京歴史的建物の活用を考える会、一水会、文化財保存全国協議会、産業考古学会、鉄道友の会、日本鉄道保存協会、全国近代化遺産活用連絡協議会、湘南邸宅文化ネットワーク協議会、ヴォーリズ建築文化全国ネットワーク

③その他

文化庁で実施している「NPO等による文化財建造物の管理活用事業」において管理活用推進委員の委託を受け、対象となる事業候補の選定業務及び指導を行った。この事業はNPO等の参画による新たな文化財建造物の保護の取組を推進するため、文化財の価値を損なわない維持管理・活用の知識・技能の習得、管理活用に関する指導やサポート、所有者に代わって管理活用を担う人材及び団体を育成し、新たな管理活用の体制を創出することを目的としている。ナショナルトラスト活動の普及及び文化財建造物の保存・活用に長年にわたって関わってきた当財団の経験と視点を活かした指導等に積極的に参画した。

(2) 国際交流事業

①海外保護団体との連絡連携及び情報の交換等、国際交流の推進

本年度も歴史遺産・自然環境の保護・保全を目的とするナショナルトラスト活動を行う世界各国の各種団体と交流を図り、情報の交換、事業協力を努めた。

<交流を図っている団体>

英国ナショナルトラスト(名誉会員)

英国シビクトラスト(正会員)

米国ナショナルトラスト(会員証によるプロパティ相互入場協定締結)

オーストラリア・ナショナルトラスト(会員証によるプロパティ相互入場協定締結)

ニュージーランド・ナショナルトラスト(会員証によるプロパティ相互入場協定締結)

クイーンエリザベスⅡ世ナショナルトラスト(会員証によるプロパティ相互入場協定締結)

ジョージア州ナショナルトラスト(会員証によるプロパティ相互入場協定締結)

フィジー・ナショナルトラスト(会員証によるプロパティ相互入場協定締結)

バミューダ・ナショナルトラスト(会員証によるプロパティ相互入場協定締結)

IV 登記事項、届出・報告・申請事項

1. 登記事項

平成 25 年 6 月 21 日

・西田厚聰代表理事、筒居博司理事、見並陽一理事の辞任及び小山正宣理事、原口宰理事、見並陽一理事の就任

2. 届出・報告・申請事項

平成 25 年 6 月 30 日

・事業報告等の提出(内閣府)

平成 25 年 7 月 10 日

・理事変更届出(内閣府)

平成 26 年 3 月 27 日

・事業計画書等の提出(内閣府)

3. 登録事項

平成 26 年 3 月 14 日

・商標権の設定登録(特許庁)

第 5655895 号「ロゴ」、第 5655896 号「Japan National Trust」、第 5655897 号「日本ナショナルトラスト」、第 5655898 号「JNT」(権利の存続期間 2014 年 3 月 14 日～2024 年 3 月 14 日)

V 訃報

理事 河合 茂美 平成 26 年 3 月 21 日逝去

顧問 田代 和 平成 25 年 11 月 24 日逝去

顧問 坂本 眞一 平成 26 年 1 月 15 日逝去

別表

東日本大震災 自然・文化遺産復興支援プロジェクト助成金交付一覧表

		NO.	所在地		対象遺産名	交付額	事業内容
第一次		1	岩手県	盛岡市	旧石井県令私邸	1,500,000	亀裂破損した煉瓦構造体及び煉瓦煙突部の修復、伝統的な漆喰塗工法による左官壁塗り直し、木部補修など
		2	岩手県	花巻市	菊池捍邸及び文庫蔵	1,500,000	文庫蔵の土壁の改修、母屋の漆喰亀裂箇所の補修など
第二次	【建造物・記念物】	3	宮城県	仙台市	西光寺 大滝不動堂	500,000	復旧および復原工事のための調査
		4	宮城県	仙台市	仙台箆笥伝承館 門間箆笥店主屋	2,500,000	漆喰壁、歪み・傾き部分の補修、陥没した床の修復など
		5	宮城県	山元町	大條氏御廟	500,000	倒壊・傾斜・破損した墓標・墓石の復旧
		6	福島県	いわき市	高橋家住宅 主屋・土蔵	2,000,000	傾斜や屋根瓦の落下、土壁の亀裂・損傷・落下が生じた主屋・土蔵の修復
		7	茨城県	つくば市	宮本家住宅 新蔵・大蔵・離れ	1,200,000	新蔵・大蔵：崩落した土壁の復旧 離れ：崩落した瓦の復旧
		8	栃木県	那須町	健武山湯泉神社の おおすぎ	600,000	「おおすぎ」脇の崩落した石垣の修復
		9	岩手県	大船渡市	泊権現舞	150,000	太鼓、衣装、笛等の購入
		10	岩手県	大槌町	雁舞道七福神	150,000	衣装、用具の購入
		11	岩手県	釜石市	常龍山御神楽	400,000	衣装の購入、太鼓の補修
	12	岩手県	釜石市	大石虎舞	400,000	太鼓、笛、虎頭、衣装の購入	
パートナー事業		岩手県	田野畑村	机浜番屋群保存 再生プロジェクト	419,500	番屋群の再生	
合計						11,819,500	

参考

顧問名簿（平成 26 年 3 月 31 日現在）

顧	問	梅崎 壽	東京地下鉄(株)相談役
		大須賀 頼彦	小田急電鉄(株)取締役会長
		大橋 洋治	ANA ホールディングス(株)取締役会長
		尾関 宗園	大徳寺大仙院閑栖
		木原 啓吉	千葉大学名誉教授
		木村 操	名古屋鉄道(株)相談役
		小谷 昌	京浜急行電鉄(株)取締役相談役
		佐々木 隆之	西日本旅客鉄道(株)取締役会長
		小山 薫堂	放送作家
		須田 寛	東海旅客鉄道(株)相談役
		清野 智	東日本旅客鉄道(株)取締役会長
		高橋 壽夫	日本空港ビルデング(株)顧問
		田中 浩二	九州旅客鉄道(株)相談役
		筒居 博司	東洋熱工業(株)顧問
		夏目 誠	成田国際空港(株)代表取締役社長
		根津 嘉澄	東武鉄道(株)取締役社長
		伏見 勝	元・報知新聞社最高顧問
		松田 清宏	四国旅客鉄道(株)代表取締役会長
		MARI CHRISTINE	異文化コミュニケーター
		三浦 朱門	日本芸術院長
		村田 光平	地球システム・倫理学会常任理事

以上 21 名

参与名簿（平成 26 年 3 月 31 日現在）

参	与	石堂 正信	内閣府官民競争入札等監理委員会委員
		木戸 寛孝	NPO 法人世界連邦 21 世紀フォーラム理事長

以上 2 名

観光資源専門委員名簿（平成 26 年 3 月 31 日現在）

観光資源専門委員	尼崎 博正	京都造形芸術大学教授
〃	井手 久登	東京大学名誉教授
〃	大河 直躬	千葉大学名誉教授
〃	大塚 初重	明治大学名誉教授
〃	西村 幸夫	東京大学教授
〃	三隅 治雄	東京文化財研究所 名誉研究員
〃	三村 浩史	京都大学名誉教授
〃	宮脇 昭	横浜国立大学名誉教授

以上 8 名